

第3回印西市教育振興基本計画策定委員会 議事要録

会議名	第3回印西市教育振興基本計画策定委員会	
日時	令和3年10月22日（金） 午後2時00分から午後4時00分まで	
場所	印西市役所会議棟2階204会議室	
出席者氏名	委員	加藤委員（委員長）、井上委員（副委員長）、内田委員、岡田委員、長岡委員、高城委員、三城委員、塩田委員
	事務局	大木教育長 高橋教育部長 教育総務課 坂巻課長、五代課長補佐、荒川係長、浅野主査補、金丸主任主事 学務課 佐久間課長 指導課 吉野課長 生涯学習課 鈴木課長 ジャパン総研 山下、藤平
欠席者氏名	一島委員、石川委員	
傍聴	なし	
議題	1 開会 2 議題（1）印西市教育振興基本計画素案について（2回目） （2）その他 3 その他 4 閉会	
配付資料名	第2期印西市教育振興基本計画【令和4年度～7年度】（第1次素案）	

（五代課長補佐が進行、会議の公開について説明、傍聴0名の報告、配布資料確認、今回は教育部の各課長の出席を確認）

議 事

1 開会

2 議題

（加藤委員長挨拶）

（議事録署名人を岡田委員に指名）

(1) 印西市教育振興基本計画素案について（2回目）

（「資料 第2期印西市教育振興基本計画【令和4年度～7年度】（第1次素案）」により事務局が説明）

委員長： 前回委員のみなさんの意見を踏まえた部分、及び事務局で再度変更した部分を青マーカーで示している。その部分を中心に見ていただくと同時に、また、新たな部分があればお願

いしたい。今回はある程度まとまった部分を検討ということなので、第1章の第1節から第5節まで、12頁まででご意見があればお願いしたい。

委員： P9のところ教えてほしい。(8)5行目、文化芸術のところ、カッコ書きの締めがないのではないか。このカッコは要らないということではないか。

事務局： こちらについては、かぎカッコを削除する。

委員長： 他にP12まであるか。何かあれば後でお願いします。P13からP17までのところで何かあればお願いしたい。

委員： P14のところ3つ目の3行目。特別支援教育を含めた児童生徒の相談体制の構築とある。文がおかしいわけではない。特別支援教育はあとで出て来る★マークの重点で出てくるため、ここは「特別支援教育を含めた」ではなく、もう少し際立てて引き上げてほしい。「特別ボランティアの配置や、特別支援教育の推進等、児童生徒の相談支援体制等」というようにしてはどうか。文はいかようにでもかまわない。

P15の一番下のところ、前回お話をさせていただいたが、社会に開かれた教育課程の実現に向けてのところ、学校・家庭・地域の連携や協働を推進することは悪いことではないが、そうするためには、コミュニティスクールを推進し、地域への情報発信に努めると追加してほしい。学校や教育センターから情報発信をやっており、説明責任があるので、文言を追加してほしい。

P16の文化芸術活動のところ。私は専門ではないが、例えば、5つ目のところ、具体性がなく、抽象的な表現になっている。そのために次に何をするのか書かれていない。もう少し、実際にやっていることを具体的に書いていただければと思う。こういうことが課題なのだとか、こういうことが盛り込まれているのだなというのがわかりやすくなると思う。

P17の生涯学習の3つ目の□のところ。2行目の「また」のところ。「どのような方でも利用できるように」とあるが、こういう書き方はいかななものか。「年齢や障害の有無にかかわらず」といったような表現にした方がいいのでは。

委員長： P14、P15、P16、P17のところのご指摘が出た。

事務局： P14については、特別支援教育については、文章をもう一度見直す。P15についてももう一度文章を検討させていただきたい。P17のところについては、確におっしゃるとおりわかりづらいところがあるので、表現を修正したい。P16のところは、具体性に欠けるところがあると思うが、基本的にその部分というのは、現状と課題ということで抽出させていただいており、後半に施策や取り組みが出て来るし、もともとの基本計画にも合わせている。

事務局： P17のところ、表現がわかりにくいので再度検討する。

P16のところは、文化芸術活動の現状と課題を記述しており、後半で事業が出てくるし、基本計画の表現にも合わせている。

委員： 文化芸術は抽象的だから、その辺は難しいと思う。1行目のところから直してもらっているが、文章がこれでいいのかと。情報の発信や発表の場を設けていくのはいいことなのだが、文化活動は、文化をあらゆる人に触れさせる機会をつくるのが大事で、情報発信、発表、体験の場を提供していくことを入れていただければよいと思う。

3番目のところで、文化芸術活動を推進するとあるが、例えば、松戸市の文化祭やポスターを見ていると「文化の馨るまち松戸市」とアピールしており、文化を大切にしているのだと伝わる。印西市も愛着を持てる印西市、これに代わるものを推進していただけないか。どうしたらいいのかというアイディアが出てこないが、ご検討お願いしたい。

文化財の保護・活用のところにおいて、有形文化財の維持についてはやっていると思うが、無形文化財については触れられていない。獅子舞や神楽舞などの無形文化財が残されているので、継承などに触れていただくとよいのではないか。

委員長： P 1 6 のところについて、次回までに担当課で検討していただければと思う。

事務局： 担当課で検討する。

委員長： それでは、次に第 2 章、P 2 0 ～P 2 6 までご意見をお願いしたい。

委員： P 2 5 のところで、基本方針 1 にあるが、地域が連携を強化すると出ていて、P 1 5 の下のところで学校・家庭・地域の協働が求められ、地域の連携を強化する、未来の子どもの教育を推進するとある。P 4 0 の一番下のところで、学校・家庭・地域の連携や協働、コミュニティスクールの取り組みを推進しますとある。コミュニティスクールを推進するにあたり、具体的に日程など示していくべきではないかと思っている。事実、千葉県では令和 2 年 7 月時点で、モデル事業として実施されていたと思うが、コミュニティスクールの実施率が市川市 100%、柏市 32.8%、印西市 0%となっている。地域学校協働本部というのがあるが、印西市は進んでいない。

基本方針に連携強化と入れるなら、コミュニティスクールをどう進めていくか、どこの課でやるのか、具体的に検討していくべきでは。P 2 5 の 2 「子どもたちの安全で安心できる生活」の中で「信頼される学校づくり」とある、そのためにもコミュニティスクールが必要ではないか。

昨今、全国的に「ブラック校則」と言われているが、印西市の中学校の校則について見直しを行うべき。今は学校が信頼されていないのではないかと。ジャージを重ね着してはいけないなど、よくわからない校則が存在する。信頼される学校づくりのために校則を再検討すべき。

コミュニティスクールに関しては、何年度中には立ち上げなど、記載してはどうか。実際に令和 2 年 1 0 月に文部科学省からコミュニティスクールの作り方の資料が出ている。学校・家庭・地域の連携・協働の推進に向けた好事例も出ている。これらを参考にして、市民に開かれた教育をするということで啓蒙活動をしてはどうか。

委員長： P 4 1 のところにコミュニティスクールを入れるべき、ということか？

委員： どこにコミュニティスクールの文言入れるのか、具体的に何をどのような連携・強化していくのかということを入れていただければ。

委員長： ご意見に対していかがか。ご意見は重いと思う。時間をかけて事務局で検討いただければ。

委員： コミュニティスクールについて、他の委員のご意見あればお聞きしたい。

委員長： 他の委員でご意見あるか。今の意見をもとにご検討をお願いしたい。他に、2 章のところで P 9 から P 2 6 までご意見あるか。

委員： 理念というのはわかるが、基本方針 P 2 1 ・ 2 2 ・ 2 3 のところ、イメージ図を作りにくいのは、P 2 1 は学校教育、P 2 2 は生涯学習、文化芸術はどこにいったのか。P 2 2 ・ 2 3 がないほうがすっきりしてわかりやすいのではないかと。基本方針は噛み砕いていくと、基本目標とつながりがわかりにくい。基本方針を削除しないと、P 2 1 ～ 2 3 がうまく説明しきれない。方向性ということで大胆にカットしてもいいのではないかと。

2 点目、P 2 4 のところ、基本目標 2 つ目の教育環境のところ、前回、インターネット、情報化社会に対応するための情報教育については、学校教育ではないかという意見があった。読んでいくと、それが正しいと思った。情報活用能力のハード整備は終わったということであれば、下 2 行は削ってしまってもよいと思う。

委員長： 基本方針は削った方が、スムーズに流れるのではないかと、また、教育環境の下 2 行をカットとのご意見だった。

委員： 前回の基本計画に沿って作っているというのもあり、基本目標・基本方針については別にカットしなくても話の流れに特に問題はないと思う。

情報活用能力については、先ほど意見があったが、情報活用能力を削除して、地域との連携

というところを入れてもいいのではないかと思います。

P 19の第3節に計画の体系という言葉が出て来る。この言葉に引っ掛かりを感じる。前に戻っていただいて、P 4を見ると基本理念があって、基本方針があって、基本目標、主な取り組みが定義されている。P 19の文言の整合性を図った方がいいのではないかと思います。第3節については、主な取り組みとしたほうが整合性を図ることができるのではないかと。

今のところの関連で、P 25で、前回からの変更で、基本理念・基本方針が落とし込まれたが、表題を、計画の体系ではなく、主な取り組みと変更すれば、流れるにはいいのではないかと思います。

委員長： 他には何かご意見はあるか。事務局はいかがか。

事務局： ご指摘をいただきましたことについて、もう一度整理をさせていただきたい。

委員長： ご検討していただければ。続いて、第3章。ここはさらに分けて進めていきたい。P 28～P 39の中で何かご意見があれば。

委員： P 30、研修についていろいろ書かれているが、研修をやった後の効果測定は、今ほどのようやっているのか。研修をやったということだけではなく、研修をやっただけ成果があった、その成果の測定はどのようにやられているか。

事務局： 実施したものについては、数値で表せないものもあるので、それぞれの研修参加者からアンケートをとっており、それを受けて次回の研修に活かしている。

委員： 先ほどのコミュニティスクールに関して、実施していく中で、教師の技量がどのように上がっているかを検証できるのではないかと思います。教職員がどのように取り組んでいるか、研修を行って学んだことや、こういうことを教えることが上達したなど、保護者の方々へ話をさせていただいたり、見えるような形で出していただければ。制度として難しいと思うが、せつかくの時間とお金をかけて研修をしているのであれば、その成果を子どもたちや保護者、地域にも見えるような形で出していただければ。意見ではなく、要望として聞いていただければ。

委員： 整合性の点で、P 28、3番目の■「要とした」とある。P 14に戻っていただくと、4番目の□で「柱に」と変更されている。P 14をP 28と整合を合わせたほうがよいと思う。

また、P 30の1の16「就学指導の推進」とある。P 34では「教育支援の推進」とあるので、整合をとってほしい。P 30の3の9の「学校環境衛生の充実」とあるが、P 38の「感染症対策の徹底」とあるので、合わせていただければと思う。

事務局： 整合性をとることとする。

委員長： 他にご意見はあるか。

委員： P 33、★印が見やすくなった。2と3に★がなかったが、一つずつくらいつけてもらってもよいのではないかと。

前回働き方改革について話が出た。子どもたちの力と働き方改革をどこに入れるべきかと思うが、外すのではなくどこにしたらよいのか悩む。

P 33の3・4・5の学校図書館の整備について。P 31には、自ら進んで読書に親しむ、読書活動の充実とある。どこかにあってもよいと思う。このままでもよいが、学校図書館の整備だけでなく、読書活動の充実を入れていただくとうれしい。

P 34、一番上、特別支援体制の充実について。P 31では特別支援教育の充実とある。ここは、特別支援体制と特別支援教育の充実を両方入れてほしい。言葉の面で、2つの充実を入れてほしい。下から三つ目の特別支援教育研修会やコスモスファイルなどは特別支援教育であるから、体制と充実の2つを入れていただければ。

それから、この中にはないが、教育環境に入っている情報活用能力については、ソフト面としてこちらに入れてよいのではないかと。P 44にきれいに分けてある。この項をそっくりこち

らにもってきても、それほど違和感がない。過渡期だったので、整えるのが大事だったが、これからは内容をどうするかが大事になるので、4年間のことを考えれば、こちらに移してもよいのではないかと。

委員長： 事務局いかがか。

事務局： 重点的取り組みの★印については、もう一度検討させていただきたい。図書館についても、事業名3つがあるので、主な取り組みの中に入れてよいのではないかと。特別支援教育の充実の部分についても、検討していきたい。P44の記載はP39に入れてもよいのではないかとということだが、検討したい。

委員： P31の■の4つ目に、言語能力とある。今必要なことは、コミュニケーション能力ではないかと思う。スピーチをしたり、ディスカッションをしたり、相手とやりとりをするような能力が大事だと思う。方向性として、色濃く打ち出してほしい。「コミュニケーション能力」という文言を入れてほしい。「言語能力」の代わりに。

委員： コミュニケーション能力が大事とされているが、言語能力も外せない。両方を入れてほしい。読書も情報伝達も言語能力に含まれているらしい。言語活動は学校現場で重要。

委員： 言語能力を否定しているのではなく、コミュニケーション能力を育成すること自体が言語能力を育成することにつながると意見を言わせていただいた。

委員： 言語能力については、学校教育に携わる人はわかるが、一般市民の人が見たときにどう捉えるだろうか。一般社会ではあまり使われていない。定義が幅広いので、並列して載せていいのでは。

委員： 併記でよいと思う。コミュニケーションは言語だけではないし、両方を載せたほうがよいと思う。

委員長： それでは、もう一度ご検討お願いしたい。

委員： P33国際理解教育について、小学校の外国語活動と英語の充実とあるが、ここにぜひ中学校も入れてほしい。小学校の英語から中学校の英語につなげ、さらに子どもたちの力を育てていくため、中学校の英語も入れていただくとよいと思う。

委員長： たしかにそうだ。前向きに検討いただければ。

委員： 付け加えたい。P35の子どもたちの豊かな心を育むのところ、小学校の芸術鑑賞教室の開催について、芸術鑑賞に加えて、体験教育の開催も入れてほしい。

委員長： 実際、体験教育をやっているか。

事務局： 小学校6年生を対象とした芸術鑑賞は基本ベースとしているが、各学校において教育委員会の主催ではないものに関しては自主的にやってもらっている。

委員長： 基本目標1が終わったので、一旦休憩とする。10分後に再開とする。

(暫時休憩)

委員長： 再開します。引き続き、基本目標2、P40～46について、ご意見をお願いしたい。

委員： 質問だが、P40のSDGsのマーク。7エネルギーについてのマークがここについている理由を教えてほしい。

事務局： 施設の改修の際に、また、GIGAスクール構想ということもあり、省エネ型のLEDの採用といったことを含めています。

委員： 整合性について。P41の3の1・2のタイトルと、P44の文言の整合が取れていないので修正を。

事務局： こちらについても、文言の整理をする。

委員長： 他に。では続いて、基本目標3にうつる。P47～P51について、ご意見はあるか。

(委員の意見等は特になし)

それでは、続いて基本目標4となる。P52～P57についてご意見があればお願いしたい。

委員： P55 図書館サービスの充実の、主な事業の2つ目に子ども読書活動とある。学校の方でも読書活動が載っている。ここは生涯学習であるので、対象は子どもだけではないわけで、ここでの子ども読書活動の推進は、「子ども」を削除して、広く市民の読書についての記載にしてはどうか。子どもの読書活動については、別のところで記載があったので。

委員長： 対象は子どもだけではないのではないかと、ということだがいかがか。

事務局： 子ども読書推進計画を印西市で作っており、今、第3期の計画の改定を行っている。その中の事業名として入れているため、このようになっている。

委員長： 他にご意見ないようなので、最後に第4章、P58から最後まで。何かあるか。

(委員の意見等は特になし)

特にないようなので、以上で検討を終わる。意見がいろいろ出たので、よろしく願いしたい。

(2) その他

委員長： (2) その他について、委員から意見があるか。

(委員の意見等は特になし)

意見がないようなので、進行を事務局へお戻しする。

3 その他

事務局： 次回の会議は来年1月中旬を予定している。日程が決まり次第、ご通知させていただく。

議事について、思い出したことなどあれば、ご意見シートに記入して1週間以内の提出をお願いする。

4 閉会

(五代課長補佐が閉会)

以上

第3回印西市教育振興基本計画策定委員会の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和 3年 11月 17日

印西市教育振興基本計画策定委員会

委員 岡田 光靖